

平成21年度

医学振興銀杏会総会開く



研究助成・奨学金受賞者一同と岸本理事長

を支援してきた支部長・評議員の皆様には、代議員として今後も御支援下さる様、御願いがなされた。

総会は定刻に早石雅有副理事長の司会で進められた。全会員7306名中委任状出席を含めて80・2%の5866名の参加を得、本総会が成立したことが報告された。岸本忠三理事長は、まず公益社団法人移行の定款変更決議のために80%を超える会員から委任状が提出されたことに対して謝意を示された。新しい臨床研修制度を契機として様々な問題が顕在化して久しいが、学生・若手医師と病院や大学医局の間を結びつけるためのネットワーク事業を始めることを紹介し、日本の医学・医療にインパクトを与える役割を果たせるよう会員の皆様にもご協力をお願いして挨拶を終えた。物故者113名へ黙祷を捧げ、

また、叙勲等表彰者への慶祝の意が表された。理事長により社団法人の総会議事が進められ、三好智満理事より事業報告と会計報告が、阿部源三郎監事により監査報告が行われ、決算予算共に承認された。松本圭史次期役員候補者推薦管理委員長より、次期役員候補が紹介され、承認された。渡邊幹夫理事より、公益社団法人への移行にあたって、代議員制を含めた組織の変更点、定款および諸規則の変更内容が説明され、承認された。また、津田賢三監事、松田守弘理事の名誉会員への推薦が承認された。議事に引き続き、地域医療に関する研究助成の採択者4名と海外留学助

成の採択者3名、学友会奨学金の採択者27名の学生・院生への授与式が行われた。

総会講演には、川島康生阪大名譽教授・国立循環器病センター名誉総長が「大阪大学と心臓移植」と題して、国内初の心臓移植が実施されるまでの長かった道程を、様々な逸話を交えながら講演された。続けて、平野俊夫医学系研究科長、大和谷厚保健学科長、林紀夫附属病院長、目加田英輔微生物病研究所副所長、村上富士夫生命機能研究科長から、学内の現状が報告され、定刻に終了した。

なお、新型インフルエンザの影響で残念ながら懇親会の中止を余儀なくされたため、本年の懇親会へご招待する予定でした卒業後50周年を迎える昭和34年卒業の皆様と平成20年6月以降に入会された皆様につきましては、来年の総会懇親会に改めてご招待申し上げます。

成の採択者3名、学友会奨学金の採択者27名の学生・院生への授与式が行われた。

総会講演には、川島康生阪大名譽教授・国立循環器病センター名誉総長が「大阪大学と心臓移植」と題して、国内初の心臓移植が実施されるまでの長かった道程を、様々な逸話を交えながら講演された。続けて、平野俊夫医学系研究科長、大和谷厚保健学科長、林紀夫附属病院長、目加田英輔微生物病研究所副所長、村上富士夫生命機能研究科長から、学内の現状が報告され、定刻に終了した。

なお、新型インフルエンザの影響で残念ながら懇親会の中止を余儀なくされたため、本年の懇親会へご招待する予定でした卒業後50周年を迎える昭和34年卒業の皆様と平成20年6月以降に入会された皆様につきましては、来年の総会懇親会に改めてご招待申し上げます。

研究助成の公募

当会では、今年度も公益事業の一環として、下記の研究助成を行います。

連絡先 (FAX) 06-6879-3503
(メール) office@ichou.med.osaka-u.ac.jp

▶地域医療に関する研究助成

対象 地域医療に貢献している病院・施設で行われている疾病の診断・治療等に関する研究をしている若手研究者(40歳未満)

募集期間 9月1日～11月30日

助成額 1件50万円程度

助成件数 4件

▶平成21年度国際学術交流助成(後期分)

内容 外国で行われる国際学会等において成果発表をされる方への渡航費用助成を目的としています。詳細は、<http://ichou.or.jp/>にてご確認ください。

期間 10月1日～11月30日(10月1日～平成22年3月31日の間に発表を行うもの)

平成21年度の医学振興銀杏会総会は、5月30日大阪大学銀杏会館にて開催された。佐多・楠本両博士の胸像に役員が献花を行った後、評議員会・支部長会において、級会・支部・学内から多くの参加者が近況を報告した。この後の総会の決議を経て代議員制が導入されることになるが、支部・級会でこれまで当会の活動

を支援してきた支部長・評議員の皆様には、代議員として今後も御支援下さる様、御願いがなされた。

また、叙勲等表彰者への慶祝の意が表された。理事長により社団法人の総会議事が進められ、三好智満理事より事業報告と会計報告が、阿部源三郎監事により監査報告が行われ、決算予算共に承認された。松本圭史次期役員候補者推薦管理委員長より、次期役員候補が紹介され、承認された。渡邊幹夫理事より、公益社団法人への移行にあたって、代議員制を含めた組織の変更点、定款および諸規則の変更内容が説明され、承認された。また、津田賢三監事、松田守弘理事の名誉会員への推薦が承認された。議事に引き続き、地域医療に関する研究助成の採択者4名と海外留学助

成の採択者3名、学友会奨学金の採択者27名の学生・院生への授与式が行われた。



第224号

社団法人

医学振興

銀杏会

06(6879)3501

(編集同人)

川越裕也 荻原俊男
大湊 茂 門田守人
米田正太郎 杉本 央
武田雅俊 木村 正
黒木尚長 山分祥興

名誉会員
松田守弘先生名誉会員
津田賢三先生

第21回シンポジウム

『地域医療の課題とその対策』開催のご案内

開催日 平成21年11月5日(木)午後3時開会

会場 銀杏会館3階 阪急・三和ホール

基調講演 瀧野敏子先生(NPO法人イー・ジェイ・ネット 代表理事)

演題 「すべての職員にとって働きやすい病院づくり～頭脳と心と財布が一体となつて人はやる気になる～」

懇親会 銀杏会館3階 大会議室

基調講演(要旨) 地域病院が医師不足で診療科の休診や閉鎖に追い込まれる異常事態が起こっている。子育てで急性期病院を去る女性医師がこの医師不足に拍車をかける状況が予想される。今こそ「女性医師対策」は「男女すべての医師の多様な生き方を認める」というパラダイムシフトの中で構築する必要がある。20歳代の若い男女医師のモチベーションを上げるためには、頭脳・心・財布の充足が必要であり医師のワークライフバランスは病院の経営課題である。

※参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

公益法人の機関と同窓生組織の関係について

本号第1面等に記載の通り、現在の社団法人（移行経過措置中の特例民法法人）から公益社団法人への移行に必要な「定款の変更案」「規則の制定・改正案」「公益社団法人設立時の役員および代議員の選任」について、平成21年度の通常総会（委任状を含む出席率80.2%）において満場一致でご承認いただきました。移行登記をめざし、認定申請の準備を進めます。多くの会員の先生方に委任状のご提出などで多大なご協力をいただき、お礼申し上げます。

この記事では、「（移行後の）公益社団法人の機関」と「同窓生組織」との関連につきまして、ご説明申し上げます。

公益社団法人には公益性が求められるため、共益団体である同窓会そのものであってはなりません。あくまでも、大阪大学医学部の同窓生を中心に設立された公益法人として運営されます。従いまして図に示しますように、同窓生の組織と公益社団法人の機関は、機関設計上はお互いに独立したものとします。

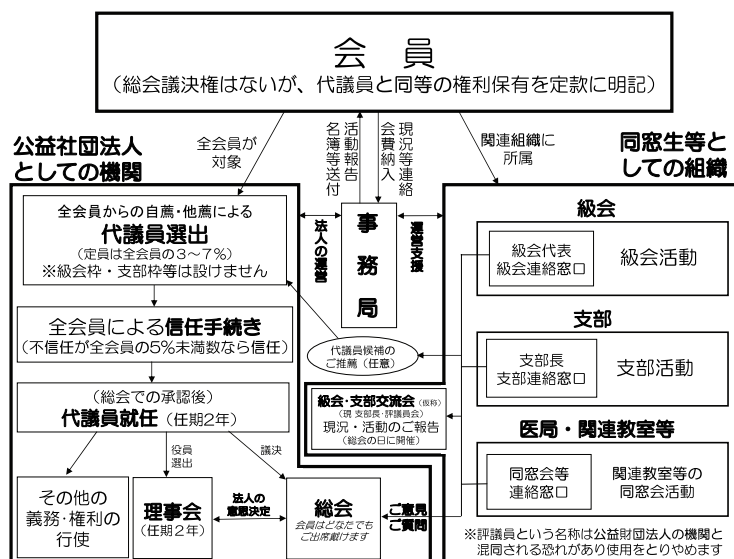
とは申しまして、同窓の先生方こそが法人の運営主体となる会員でいらっしゃるしますので、今までどおり、級会や支部、関連教室等の組織は引き続き公益法人の機関と緊密にご協力いただく必要がございます。これらを両立させるための主なポイントは3つございます。

- ① 代議員制を新たに導入いたしますが、**代議員の定数には、級会枠や支部枠等は設けておりません。**代議員選出の際には、各級会・支部・関連教室から代議員候補の自薦やご推薦をぜひいただきたいと存じますが、新定款上、定員は全会員の3～7%という規定のみとなっております。これは、公益法人機関の構成が同窓会としての組織構成に制約されていることを理由に共益団体とみなされることを回避するためのものです。
- ② 法律で定められている評議員会は公益財団法人の最高議決機関であり、公益社団法人には不要の機関です。従いまして、誤解を生じる恐れがあるため当会では**評議員という名称の役職は廃止いたします。**これまでの評議員制度が代議員制度に改められたと捉えていただいてもおおむねよろしいのですが、①でご説明しましたように代議員には級会や支部枠がございませんので、全く同一ではございません。
- ③ 従来、総会の前に行っておりました支部長・評議員会は、**級会・支部交流会（仮称）と改称し、**いままでどおり各級会や支部の現況をご報告いただく場として存続いたします。これまで支部長や評議員の先生方にご出席いただいておりますが、これからは、各級会や支部のお世話をしていたでいる先生に代議員か否かにかかわらずご出席いただき、ご報告をいただく会にしたいと存じます。

このたびの再認定に臨み、公益法人としての立場を明確にするためにこのような組織構成となり、戸惑われる先生もいらっしゃるかと存じますが、事情ご賢察いただければ幸いです。

なお、総会で承認された機関設計につきましてご不明等ございましたら、事務局まで、できましたら文書（手紙・FAX・メール等）にてお問い合わせください。よろしくお願い申し上げます。

〒565-0871 吹田市山田丘2-2 銀杏会館二階 社団法人医学振興銀杏会
FAX 06-6879-3503 Email: office@ichou.med.osaka-u.ac.jp



平成20年度秋の叙勲および受章

瑞宝中綬章 松本 圭史先生 (昭28)
瑞宝中綬章 西沼 啓次先生 (昭32)

平成21年度春の叙勲および受章

瑞宝重光章 古川 俊之先生 (昭30)
瑞宝中綬章 田中 武彦先生 (昭28)
瑞宝中綬章 榊原 博先生 (昭30)
瑞宝中綬章 田川 邦夫先生 (分生物)
瑞宝中綬章 岡 源郎先生 (分薬理)
旭日双光章 尼子 隆章先生 (昭33)

叙位叙勲

従四位瑞宝中綬章 鎌田 武信先生 (昭33)
平成21年5月2日ご逝去

受 賞

クラフォード賞 岸本 忠三先生 (昭39)
クラフォード賞 平野 俊夫先生 (昭47)
日本医師会優功賞 酒井 英雄先生 (昭49)
日本医師会優功賞 小澤 孝好先生 (昭59)

<名簿発行のお知らせ>

平成21年度の会員名簿を11月に発行いたします。

会費完納者を対象にお送り致しますので、会費未納の方は、同封の払込取扱票にてご入金の程よろしくお願い申し上げます。

新役員 (2009.6.29より2年間、任期中に公益認定)
された場合2011.5.28迄 ○は新任

役 職	卒 年	氏 名
理 事 長	昭39	岸 本 忠 三
副理事長	昭36	伏 見 尚 子
副理事長	昭42	早 石 雅 宥
副理事長	昭45	門 田 守 人
理 事	昭42	山 西 弘 一
理 事	昭43	荻 原 俊 男
理 事	昭45	本 田 武 司 ○
理 事	昭49	露 口 雄 一
理 事	平09	藤 本 裕 司
理 事	昭51	目 連 晴 哉
理 事	昭53	三 木 善 次
理 事	昭55	富 田 尚 裕
理 事	昭57	馬 場 雄 造
理 事	長崎大昭59	朝 野 和 典 ○
理 事	昭59	楽 木 宏 実 ○
理 事	昭60	北 川 透 ○
理 事	気象大平04	桑 田 成 規
理 事	平05	渡 邊 幹 夫
理 事	平05	三 好 智 満
理 事	平17	大 和 彩
監 事	昭18	阿 部 源三郎
監 事	昭41	越 智 隆 弘
監 事	昭43	宮 武 邦 夫
監 事	昭51	杉 本 央 ○
監 事	昭56	山 口 時 雄
役職による理事	昭47	林 紀 夫
役職による理事	昭47	平 野 俊 夫

新名誉会員

津田賢三先生 (昭17専)・松田守弘先生 (昭33)

話 題

新型インフルは新緑の関西観光に打撃を与えた。代わりに興福寺の阿修羅像が東京で凄い人気になり仏像ブーム到来と聞く。貴乃花が武蔵丸との優勝戦で足の痛みに耐えて勝った直後の表情を見て、この阿修羅像の顔を瞬時に思い浮かべたものである。端正なお顔の仏様は脱活乾漆という技法で作られている。まず粘土で概形を作り、その上に麻布を麦漆で貼り重ねて像の形を丁寧に仕上げていき厚さ1センチほどになったら、目立たぬ部分をくり抜き粘土を掻き出す。大きな張りぼてだが漆が乾いたものだから硬くて軽い。幾度かの火災に遭遇されたが無事であるのも持ち出しが容易だったからだという。

旅に出ると漆器店でお椀を手にする人が多い。

漆と柿渋と阿修羅像

最近ではプラスチックに人工塗料を塗った高額なものが出回っている。掌(たなこ)でじんわり触れると本物の木地モノからは温かさが感じられ、プラモノは冷たいから真偽の判定ができることは多才な故長谷川利典教授(保健学科放射線技術科学専攻)から学んだ。

昔も今も漆の値段は高い。樹液の採取には時間も人手も要するからだ。乾漆法が平安中期以降下火になったのもそのため。

漆の下地に柿渋が用いられ、漆が乾いたのは丁度この頃かららしい。若い柿を搾って発酵させた液汁で和紙に塗り込むと撥水性が高く戦後しばらく番傘やうちわ、旅人の携帯雨具に利用されたのを思い出す。古人の知恵に脱帽。

平城遷都祭の成功を祈る。
大湊 茂 (昭45)

トピックス

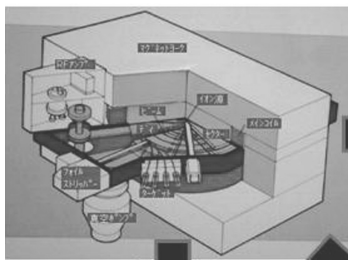
素粒子と放射線医学

大阪大学では今、素粒子物理学の医学・生命科学への応用が始まろうとしています。世界最高水準の素粒子測定技術をもつ大阪大学核物理研究センターは、生命科学研究への応用に門戸を開放しており、物質存在の根源を対象とする素粒子物理学の手法を駆使した画像診断・放射線治療が展開されています。

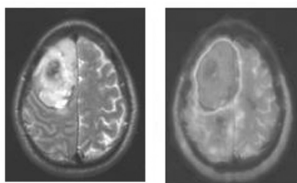
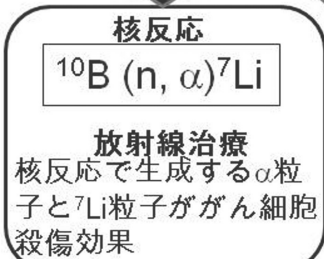
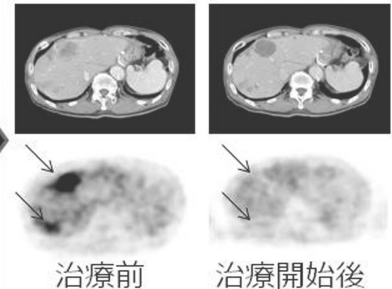
放射線医学、核医学、放射線治療は、素粒子物理学の進歩から最も恩恵を受けている分野です。X線、γ線、核磁気共鳴、陽電子は生体画像診断法の信号源として日常の画像診断に役立っています。悪性腫瘍診断に用いられる陽電子断層撮影(PET)を行うために、毎朝6時から阪大病院に設置されているサイクロトロンで陽子を加速し、安定同位体酸素18(陽子8個、中性子10個)と核反応を起こさせ、陽電子放出核種フッ素18を生成し検査薬F-18FDGを合成しています。PETカメラには光が60cm飛行する時間(2ナノ秒)が検知可能な測定回路が数万台装備され、悪性腫瘍からの陽電子消滅γ線を正確に検出し画像化しています。素粒子・原子核由来する現象は、生体内分子認識機構、生体内分子動態、極微量元素動態を解明するため最先端計測技術に活用され、「分子イメージング」という新しい学問分野が生まれました。素粒子観測技術、多彩な新規放射線核種、信号処理技術は、生きている遺伝子改変動物・疾患モデル動物での病理態、創薬・医薬品動態、ヒト脳機能、悪性腫瘍、認知症、再生医療の分野に応用されています。さらにヒトを対

象として、分化細胞の特異的代謝の画像化(未来医療センター)、医薬品の体内動態解析(PET分子イメージングセンター(2010年竣工予定)、免疫細胞の体内動態解析(免疫学フロンティア研究センター)など、臨床応用の一歩手前まで来ています。素粒子の中でも、最近では中性子に注目が集まっています。DNAの立体構造解明にはX線回析が用いられましたが、中性子は「水環境を含む分子立体構造」の唯一の探索子です。中性子線回析によって、刻々と変化する膜受容体、機能性ペプチド、糖鎖の立体構造を画像化することが可能です。中性子は悪性腫瘍の治療に用いられようとしています。中性子捕獲療法は、腫瘍に取り込まれたホウ素と体外から照射した中性子の間で起こる生体内核反応を利用しており、難治性がんの画期的治療法として期待されています。

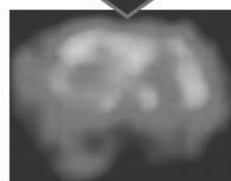
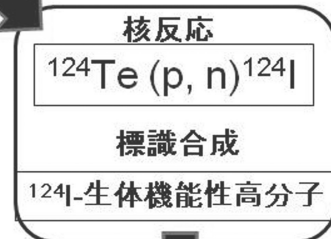
粒子加速器(サイクロトロン)



イマチニブの治療効果

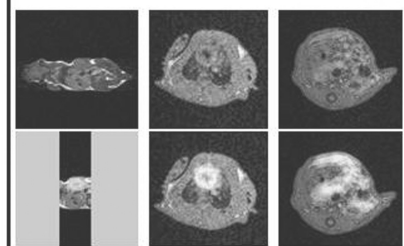


難治性脳腫瘍の治療

 ^{124}I -iomazenilによるラット脳神経受容体

測定機器開発

世界初のPET/MRI



提 言

小生が医学部を卒業した今から約40年前、昭和45年頃は、CTもMRIもない時代であり、

その後の医学、医療の進歩は著しい。それと共に、新しい職種が数多く生まれてきた。著明に増加してきた医療機関へのトータル、クレームに対応するための医療メディアーターもその一つである。この1-2年こ

の言葉をよく耳にするようになった。

「医療メディアーター（医療対話促進者）」は、医療事故など、病院内のトータルに対し第三者的な立場で、患者と医療者の対話の橋渡しを行う仲介者である。医療メディアーターの要望が急速に拡大している。そのような中で、平成20年3月に日本医療評価機構のもとで日本医療メディアーター協会が設立された。養成の

ための教育プログラム受講者が、平成20年度には942名と急増している。また、医療メディアーターの認定制度も始まっている。

医療メディアーター

近年、多くの病院でトータル対応のため警察官O Bを雇用している。しかし、医療メディアーターの役割りではなく、主として、病

院の側に立った役割りである。医療メディアーターの役割はあくまでも仲介者であり、トータルを直接解決させるものではなく、解決

に向かう環境をつくることである。また、医療事故や苦情処理だけではなく、インフォームドコンセントなど患者医療従事者のギャッ

プを埋める役割も期待されている。

日本医療メディアーター協会がまだ設立されたばかりであり、各医療メディアーターが各々の立場で新しい道を切り開いている時期である。今後、医療メディアーターが新しい職種として根付くためにも、是非ともメディアーターの行動指針の整備、財政的妥当性の整備、世の中での認知などが必要であるが、新しい職種だけ

にまだまだ課題が多い。今後、医療上のトータル、クレームが減少して行くとは考えづらい。医師、看護師などの医療従事者、特に病院勤務医の負担軽減のためにも、必要性が高いが、ここにも医療機関での経費の負担の問題が出てくる。今

までに、新しい職種が多く生れているが、是非ともきちんと診療報酬上に反映してほしいものである。

米田正太郎 (昭45)



…その125

私の故郷は、山陰沖にある隠岐の島である。隠岐高校を卒業し、阪大に入ってから、大阪暮らしを続けてきた。故郷は捨てたも同然と思っていた。だが親父の死去で突如、故郷に関わらざるを得なくなった。我が家は代々の山林地主で、奥山と里山に古い神社がある。その祭祀を受け継がなければなら

ばならない。家に伝わる学問（心学）もあり、その伝統も受け継がなければならない。石田梅岩の石門心学と同様の、古様の心学で、大門心学（大西家の心学）と称する。刻苦勉励・勤勉実直を良しとする哲学で、これが神道と結び付く。医学の勉強はしたが、宗教の勉強などしたことはない。大いに困惑してしまっ

た。脳外科の先輩で御指導を頂いた故神川喜代男先生（昭28）が、同級生に神職になった男がいる、という

中言の神

た。そして神道哲学を学ぶと共に、改めて心学を勉強し直した。心学とは謙虚なる勤勉の思想、その考え方の基本にあるのはプラグマティズム、

人々との触れ合いを、新たな情報学に求め、大阪市大の大学院に入学した。都市情報学の情報メディア

環境研究分野を専攻した。メッセージを伝えることの重要性を、今一度、深化させて考えて見たかったからである。メッセージはコンセプト（概念）伝達とコンテンツ（情報内容）伝達とコンテキスト（文脈背景）伝達とに分けられる。そのコン（関わり）のデータは、メタデータの配列に沿い、手段と方式と信頼の下に、階層構造を以て他者に伝えられる。それは私が日常の診療において、意識せぬまま、日々、患者や家族に伝えていたスタイルである。

つまりインフォームド・コンセントであった。私が祭祀を司る神社は「中言（なかご）神社」と言つ。中言とは、人々との中取り持ち、人と神との中取り持ち、言葉の交流の神である。メッセージの重要性を、古典的に表現するものであった。私は、このような神に仕えることを誇りに思っている。次回は阪大病院 血管外科の川崎富夫先生（昭54）にお願いしました。

厚生医学協会理事長
大西俊輝 (昭47)

診療科紹介

整形外科

大阪大学の整形外科は、第二次世界大戦の戦火の中、初

代教授に清水源一郎が就任（1945～1954年）して以来、現在、開講64周年を迎えています。以後、原田基男教授（1958～1959年）、水野祥太郎教授（1960年～1970年）、小野啓郎教授（1972～1994年）、越智隆弘教授（1994～1999年）、吉川秀樹（1999年～）と現在まで受け継いできました。同窓会員の数は約750名、関連病院は約80施設（図）であり、日本の整形外科の中でも最大規模になっています。しかし、2004年の初期臨床研修システムへの導入を含め様々な社会環境の変化に伴い、整形外科医を希望する医師の減少がおこっています。このような時期は、大阪地域の整形外科医療の質を守るために、また世界に伸びる大阪大学整形外科であり続けるために、次の30年くらいを見据えた基盤の強化を慎重にかつ素早く行っ

ていく必要があると考えています。

まず、優れた整形外科医師の着実な育成・輩出が最も重要な責務です。整形外科医は、頸椎以下の運動器疾患すべてを扱う総合的医師であることが挙げられます。外傷、変形性脊椎症や変形性関節症などの変性疾患、骨軟部の感染症・腫瘍、スポーツ障害、成長期の障害、関節リウマチ、代謝性骨疾患といった多岐にわたる疾患群、部位で分けますと脊椎外科、肩関節外科、手の外科、股関節外科、膝関節外科、足の外科といった多くの部位に関して、学ぶ必要があります。治療に関しては、ある程度の専門性・得意分野がある方が医療の質は維持されますが、診断学に関しては、すべてに卓越するように教育がなされなければなりません。運動器の総合医としての診断学を広く学ぶことの重要性を知ってもらうため、卒後6年間は、様々な分野の研鑽ができるように1年ごとにタイプ

の異なる病院での研修を行ってもらっております。広い診断学と基本的な手術能力を得てから、卒後7年目以降に専門的な分野や基礎研究に進むという教育方針を貫いております。

近年、外科医のQOL向上が課題となっております。緒方洪庵の医戒にみるように「人のために生活して、己のために生活せざるを医業の本髄」を実践すべく、「患者のことを考え一所懸命治す」という善意の行為を、経済的にも精神的にも余裕がない人間に求めましても、それに答えて多くないと考えざるべきです。医師の数が減少しても、優れた教育システムを維持するためには、経済的・精神的に余裕がない状況を作らない配慮が必要であり、それは医者を大切にす地域や施設に医療の集約化を行い、そこで質の高い医療と教育をこれまで以上に発展的に行つことである。」「医者を大切にする地

域が、患者を大切にする医者を育てる」と考えております。一方、入局者が急速に増えた時期からすでに20年を経て、診療所での地域医療に貢献されている整形外科専門医の数は非常に増えました。運動器疾患の総合的診断と保存的治療を行っている診療所と、整形外科の単独でなしえるこ

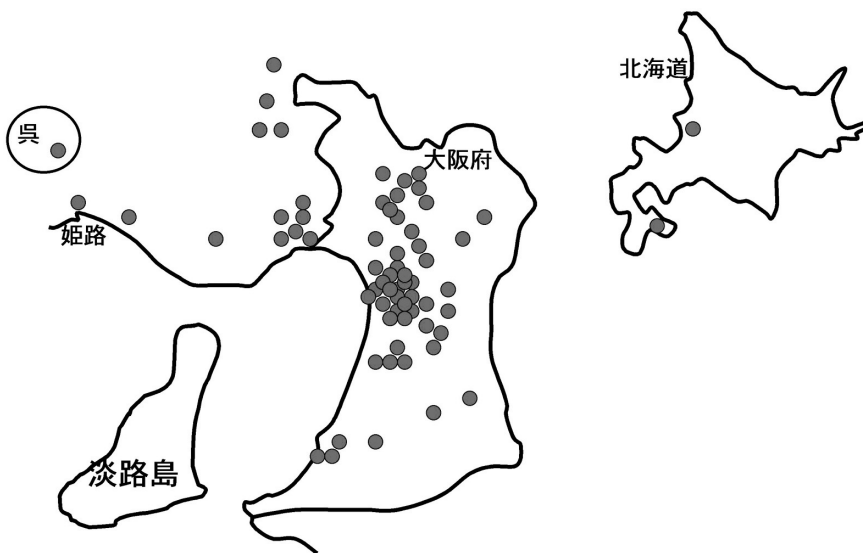
域が、患者を大切にする医者を育てる」と考えております。一方、入局者が急速に増えた時期からすでに20年を経て、診療所での地域医療に貢献されている整形外科専門医の数は非常に増えました。運動器疾患の総合的診断と保存的治療を行っている診療所と、整形外科の単独でなしえるこ

科学的治療、より専門的治療を主体に行つ病院との機能的な連携ができる規模になっています。診療所の整形外科医間、診療所と病院整形外科医間の情報交換の場の体制強化がこのためには必要であると考えられています。このいずれも阪大整形外科の単独でなしえるこ

とではございません。どうぞ、学友会の皆様方の温かいご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。次回、内分泌・代謝内科にお願いいたしました。

吉川秀樹（昭54）

大阪大学整形外科専門研修関連施設ネットワーク



岸本忠三先生、平野俊夫先生のクラフォード賞ご受賞を祝して

本年5月11日、スウェーデンストックホルムにおいて岸本忠三学友会理事長と平野俊夫医学系研究科長がクラフォード賞を受賞されました。クラフォード賞とは、ノーベル賞の対象となっていない研究領域（天文学、数学、地学、環境や進化についての生物科学）に加え関節炎に関する研究領域で卓越した研究者にスウェーデン王立アカデミーより授与される賞です。このようなノーベル賞にも匹敵する権威ある賞を本学医学部出身者が受賞されたことは、医学部学友会のみならず大阪大学にとってもこの上ない名誉であるとともに大きな喜びです。

もちろん、今回のクラフォード賞は岸本、平野両先生によるインターロイキン6（IL-6）の発見に対して贈られたものです。1970年代後半、医学部第三内科の研究室で岸本先生らのグループはB細胞を抗体産生細胞に分化誘導する分子をT細胞が分泌することを見出しました。さらに場所を細胞工学センター（現在の生命機能研究科）に移して平野先生らを中心にその分子の精製は続けられ、1986年、日夜分たぬ努力はIL-6のクローニングという形で実を結びます。その後も、たたみかけるようにIL-6シグナル伝達経路の全容を明らかにするなど、世界のサイトカイン研究を大きくリードされました。

また、IL-6の生物活性についても当初考えられていた以上に多様な機能を有すること、様々な病気、特に炎症性疾患の病態に関わる主要分子であることが明らかにされました。更に、岸本先生らが開発したIL-6受容体に対するヒト化抗体は、リウマチ性関節炎、若年性特発性関節炎、キャスルマン病などIL-6の異常産生を伴う疾患に対して非常に有効であることが明らかとなっています。現在、この抗IL-6受容体抗体は世界各国で認可されつつあり、リウマチ性関節炎の新たな治療法として大きな期待を集めています。

このように、お二人は基礎研究の成果を臨床の場に還元するという医学研究者なら誰でも憧れる「Bench to Bed」の研究を見事に成し遂げられました。クラフォード賞の対象研究領域が関節炎ということを見ると、今回のご受賞は当然のことというよりもむしろ遅すぎたのではないかと思います。岸本先生と平野先生においては、それぞれのご研究がさらに大きく展開されることをお祈りするとともに、大阪大学のさらなる発展にこれからもご尽力を頂けるように切にお願いし、お祝いの言葉といたします。

菊谷 仁（微生物病研究所長）

クラフォード賞を受賞して

平野 俊夫（昭47）



スウェーデンでのクラフォードディ（5月11日ー13日）の3日間の出来事は私の脳裏に焼き尽くされた。しかし、それは夢か幻か、未だに定かではない。すべては、一つのメールから始まった。平成21年1月15日、いつものように朝9時ごろ大学に来てメールチェックをしていたところ、

Urgent letter from the Royal Swedish Academy of Sciencesという件名のメールが目飛び込んできた。Urgent letter---、一瞬、迷惑メールの一つかと思った。読んでみると、1月14日の王立スウェーデン科学アカデミーの会議で、コロラド大学のディナレロ教授、岸本教授それに私が2009年のクラフォード賞受賞者に選出されたいらしい。スウェーデン時間の1月15日午前7時（日本時間同日午後3時）に公表するので、その前に科学アカデミーの運営責任トップのオキスト教授が直接国際電話をかけたいので電話番号を知らせてほしいという内容であった。

5月11日ー13日の3日間、クラフォードディがストックホルムとルンドで開催された。11日は日本大使館での昼食会に始まり、王立科学アカデミーでの授賞式リハーサル、記者会見、受賞者記録書への署名、国王、王妃と写真撮影の後、午後4時半から科学アカデミーで国王、王妃ご臨席のも

岸本 忠三（昭39）

受賞に際して感想を書くようにと編集部から依頼を受けました。今回は共同研究者であった平野君と同時受賞であったことは大変嬉しいことです。

スウェーデン国王、王妃御臨席の晩餐会で三人で最も年長の私が代表して行った挨拶文を引用させていただきます。

Your Majesties, Your Excellencies, Crafoord Laureates, Members of the Crafoord family, Ladies and Gentlemen, on behalf of co-awardees Dr. Dinallero and Dr. Hirano, I would like to express my sincere appreciation to the Royal Swedish Academy of Science and the Crafoord Foundation for awarding us the prestigious Crafoord prize.

I am particularly pleased that our studies have contributed to relieve the suffer of patients with rheumatoid arthritis.

It is said that anti-cytokine therapies including TNF, IL-1 and IL-6 have brought a paradigm shift in the treatment of the rheumatoid arthritis. These treatments prevent the progress of the joint destruction, thus wheel chairs will not be any more required for the rheumatoid patients.

My scientific belief is that Fundamental

と、授賞式が開催された。国王を先頭に受賞者の入場、アカデミー会長挨拶、賞選考委員長による受賞理由の説明、そしてオクィスト教授の司会による授賞式が厳かに執り行われた。国王から直々にメダルと賞状をいただき、固い握手を交わした。アバのダンスィングクイーンの生合唱が会場に響きわたった。そして、国王、王妃臨席のもと晩餐会が開催された。2日目はカロリンスカ研究所ノーベル講堂で学術講演会があり、受賞者がそれぞれ50分の講演を行なった。3日目はルンド大学で一般向けの30分の講義、学生からの質問、記者会見をこなした。私の30年の研究者人生が3日間に凝縮された決して忘れる事ができない時間であった。莊周のように“胡蝶の夢”を見ていたのか？

多くの良き共同研究者と、山村雄一先生や岸本忠三先生をはじめとする指導者に恵まれたこと、多くの幸運に恵まれたこと、今日まで研究を続けることができたことを、ただただ感謝するのみです。

<略歴>

昭和47年 3月 大阪大学医学部卒業
 昭和53年10月 大阪府立羽曳野病院内科医員
 昭和55年 5月 熊本大学医学部助教授
 昭和59年 1月 大阪大学細胞工学センター助教授
 平成元年11月 大阪大学医学部教授
 平成14年 4月 大阪大学生命機能研究科教授
 平成16年 4月 大阪大学大学院生命機能研究科長
 平成16年 6月 藤原賞
 平成18年 4月 紫綬褒章
 平成20年 4月 大阪大学医学系研究科長・医学部長

sciences, which have solved mysteries of life, always contribute to the treatment of incurable diseases.

I would be very much happy if our studies could be counted as one of such examples. Last but not least, I would like to express my appreciation to the hundreds of our collaborators, without whose help this success would not be possible.

I would be pleased if this prize could encourage young colleagues as well as many immunologists in the field of cytokine researches and this scientific field will further develop for the help of the patients with incurable diseases.

Thank you very much.

<略歴>

昭和39年 3月 大阪大学医学部卒業
 昭和58年 7月 大阪大学細胞工学センター教授(免疫細胞研究部門)
 平成 3年 4月 大阪大学医学部教授(内科学第三講座)
 平成 3年 4月 米国国立科学アカデミー外国人会員
 平成 7年 8月 大阪大学医学部長
 平成 7年12月 日本学士院会員
 平成 9年 8月 大阪大学総長
 平成10年11月 文化勲章 受章
 平成16年 1月 総合科学技術会議議員
 平成18年 7月 大阪大学大学院生命機能研究科教授

※クラフォード財団より紙面への掲載許可を頂いた写真はWeb上では公開できませんので、記事のみ抜粋して掲載しています